

飛び出せ 学校

この新聞は、杵築市大田小学校の6年生(神田文聡教諭=7人)が、大分合同新聞社の記者と一緒に作りました。

大分合同小学生新聞

発行者
杵築市
大田小学校
6年生

大田の豊かな大自然



私たちの住んでいる杵築市大田は、豊かな自然に囲まれた国東半島宇佐地域に位置しています。この地域は、「世界農業遺産」に認定されています。世界に認められた美しい自然と、それを生かした農業について知ってもらいたいと思い、この記事にまとめました。一生懸命に書いたので、ぜひ読んでください。



杵築市大田白木原で農業を営んでいる河野幸信さん(73)は、約50年間苦闘を重ねながらシイタケ栽培をしています。収穫量は、ミカン箱で約50箱分。それを大切に育てられたシイタケと大田の農業を支えるため池



世界が認めた循環システム

私たちの住む国東半島宇佐地域は、「世界農業遺産」に認定されています。その理由を知るために「世界農業遺産の先生」として知られている林浩昭さん(62)に話をうかがいました。林さんは、水の循環システムとクヌギを使ったシイタケ栽培について、シイタケを食べることで地球温暖化を防ぐことができるということについて教えてくれました。

国東半島宇佐地域には、多くのため池があります。このため池は、クヌギ林のおかげで、水が一定の量に保たれています。ため池により田畑がうるおい、農作物がよく育ちます。使われた水は海に流れていき、海産物をよく育て、雨として再び山に戻り、ため池の水となります。このような地域のシステムを受け継いできたことが、世界に認められたと教えてくれました。



シイタケ栽培と林業と水の水循環システムのつながり

米づくりは日々勉強

安東勇次さん
ことは、土づくりや水管理だそう。土には、たい肥などをまぜるそうです。しかし「たい肥を入れすぎると、土が重くなり稲が倒れてしまう」と話していました。米づくりがうまくいかない年もあるそうです。だから、毎年毎年、白々勉強をしているそうです。「米づくりには正解がない」と言っていました。そんな安東さんが、米づくりを続けているのには理由がありました。それは、米を買ってくれた人に「おいしかった。また作ってくれ」と言われるからだそうです。「お米づくりは大変だけど、ほめてもらえ

山を育てる林業

私たちの大田小学校は山に囲まれています。その山にはたくさん木が生えています。その木を管理しているのは誰でしょうか。それは、林業という仕事をしている人たちです。私たちが住んでいる国東半島は、世界農業遺産に認定されています。その世界農業遺産に深い関わりのある林業について、福田林業代表取締役の福田明彦さん(49)に話をうかがいました。林業には「春さし」という春に苗を植える作業と、「秋さし」と

秋に苗を植える作業があります。春さしや秋さしをする季節はとも忙しいそうです。他にも一年で一番大変な時期は夏というこも教えていただきました。ハチが出たり、熱中症になりやすかったりするからだそうです。また、普段はほとんど機械で木を伐採するけれど、斜面の木だけはチェーンソーで切るというこも教えていただきました。福田さんたちが育てている山の木



福田さんたちが育てている山の木

3年ぶりのどぶろく祭り

河野真二さん
く量は、これまでと比べて半分ほどに減ったそうです。宮司の河野真二さん(50)は、「造る量が減ると、量の調整が難しい」と話していました。どぶろくを造るには、20人ほどの人数が必要だそうです。特に大変な作業は、泊まり込んで、どぶろくがあふれないように管理することだということです。とても難しく、経験のいる作業なのだと話していました。どぶろく祭りは、農作物の豊作を願い、神様に感謝するお祭りです。河野さんは、その祭事を取り仕切る責任者で、祭りが無

事には終わることができたときに、達成感を感じるのだそうです。みなさんもぜひ、大田の「どぶろく祭り」を訪れてみませんか。



私たちが作りました

新聞ができるまで



⑤記者から取材に必要な道具や写真の撮り方などを教わった(2022年5月19日) ⑥福田さんに木を育てる仕事について聞いた(8月30日) ⑦グループでより良い見出しについて議論した(12月2日)

杵築市大田は国東半島宇佐地域に位置し雄大な自然に囲まれている。大田小6年生7人は、「大田の豊かな自然」をテーマに古里の魅力を伝えようと、地元の人々を訪ね新聞づくりに挑んだ。大分合同新聞社杵築支局の富高萌南実記者(25)が記事の書き方や写真撮影のポイントを説明。「みんなが知らないことを新聞に書きたい」と気合十分に学校を飛び出した。シイタケ栽培に励む河野幸信さん(73)を訪ねた児童は、ため池がシイタケや米作りに欠かせない場所だったことが分かった。林浩昭さん(62)によると、シイタケ栽培に使われるクヌギの木によってため池の水量が保たれるなど、水が循環するシステムがとられており「世界農業遺産」に認定された理由であると説明を受けた。米農家の安東勇次さん(62)からは、米を作ってほしいという消費者の声が励みになっているという安東さんの思いを、熱心に書き取った。白鬚田原神社の河野真二宮司(50)には「どぶろく祭り」について尋ね、1300年以上の歴史に思いをはせた。福田明彦さん(49)からは、植樹や木の伐採を通して、山を育てる「林業」の重要性を聞いた。地域のこを取材した児童は、大分合同新聞社ニュース編集部佐藤晋記者(41)から見出しやレイアウトの付け方を学び、地域の自然や人々のことを伝えたいという熱い思いのこもった新聞を完成させた。

この企画は小学生(主に5、6年生)が、地域の魅力や課題を取材し、新聞にまとめる作業を通して古里を見詰め直すことを目的としています。問い合わせは大分合同新聞社地域連携室「飛び出せ学校」係へ。☎097-538-9729、Eメールnie@oita-press.co.jp

Gate
動画
新聞づくりの様子をご覧ください